

平成16年度事業計画

新世紀に入って4年目、既に改革の成果は上がりつつあるが、日本油化学会の活性をさらに高めるべく平成16年度の事業計画を充実させ、それを着実に進めていきたい。

再編された専門部会は活発な活動の芽が既に現われ始めており、大いに期待される。学会の最重要活動の一つである論文誌「JOS」の充実を図るため、会員からの積極的な投稿を募るとともに、学生会員への電子ジャーナル版の無償提供ならびに外国からの年会参加および「JOS」への投稿のよびかけを行う。(財)油脂工業会館の共催を得て開催される地区講演会も軌道に乗り、全国で油化学の啓蒙に資している。今後さらに会員の増強に繋がるものと期待している。対外的には、AOCsとの緊密な交流を維持するとともに近隣諸国のみならず、ISFとの活発な関係をも考慮した体制を検討していきたい。

今年はAOCs(5月にシンシナティ)およびMalaysia Palm Oil Board(以下MPOB 第43回年会に合わせて開催)とのシンポジウムが開催される。ホームページ委員会が設置され、日本油化学会からの情報発信の新しい体制が整ったが、会員からの貴重な情報発信の手段として育てていきたい。学会活動には財務基盤の安定が最も大切であるが、会員増強と各種企画の活発化で実現していきたい。

1 会務

1.1 総会

第50回通常総会を平成16年3月31日、油脂工業会館会議室で開催する。平成15年度事業報告および収支報告、平成16年度事業計画案、収支予算案および名誉会員推戴等を審議し、平成16年度役員を選任等を行う。通常総会終了後、総会報告会、名誉会員推戴式および表彰式を開催し、日本油化学会名誉会員推戴、日本油化学会功績賞および平成15年度学会賞等選考結果等について報告し、表彰する。続いて講演会ならびに懇親会を開催する。

1.2 理事会

平成16年度理事会の開催予定数は5回。平成16年度会長、副会長、常務理事の選任、運営委員長、各業務委員長および支部長等の選任、諸事業計画の立案・推進、平成16年度一般会計・特別会計決算案および平成17年度同予算案の作成等、重要案件について審議し、決定する。

1.3 運営委員会および運営会議

運営委員会の開催予定数は6回。運営会議は運営委員会が開催されない偶数月に少数回開催する。運営委員会および運営会議は、理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の活動方針について議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

総務委員会は、ホームページ委員会によるHPの充実、会員名簿の改訂などに取り組む。財務委員会は、法人会員の増強や広告収入を増すための企画を検討するなど、財政基盤強化策を引き続き検討する。企画・部会統括委員会は、専門部会活動のなお一層の活性化を図り、本部事業の見直しを行う。国際交流委員会は、JS2004の準備と新たな国際会議の創設に向けて関係国と協議する。また、年会でJOCS-MPOBジョイントシンポジウムを開催する際に東南アジアをはじめ海外からの参加者を募るなど、国際化を推進する。編集委員会は、それぞれの会誌についてシステムを確立するとともに、「JOS」については外国からの投稿を促進し、国際的評価が高まるように務める。「オレオサイエンス」については会員に読まれる会誌づくりをめざす。規格試験法委員会は、重合物の分析法、基準油脂分析試験法の英文化等について引き続き検討する。

2 事業計画案

2.1 本部事業

第5回フレッシュマンセミナーは、「油脂と脂質」については5月東京国立近代美術館にて、「界面科学と界面活性剤」については6月東京理科大学で開催する。また、第4回基準油脂分析試験法セミナーと第3回界面科学アドバンスセミナー、第2回界面活性剤評価・試験法セミナーを引き続き開催し、基盤事業として定例化をはかる。さらに、セミナーテキストの教本編纂・出版および新規事業について企画・検討する。

2.2 支部活動

3支部による講演会、セミナー等は例年に倣って開催する。また、地域ごとの小集団活動の支援について検討する。さらに、支部活動の範囲を拡げるための地区講演会（油脂工業会館共催）は「油化学関連の生理活性物質」を共通のテーマとして、新潟市（関東支部）、伊那市（東海支部）、大津市および松江市（関西支部）においてそれぞれ開催する。

2.3 専門部会活動

専門部会は、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会の5部会体制の2年目を迎える。各部会は専門性の追及と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー等の充実と定着化をはかる。独立採算制のもとに、小集団活動的運営のもとに活性化をはかる。

2.4 会誌

学術論文を中心とする「Journal of Oleo Science」と、学術情報を中心とする「オレオサイエンス」を各々12号発行する。両誌ともに平成17年1月号から、表紙デザインの変更をそれぞれの編集委員会で検討する。会員サービスの一環として、前者は学生会員に電子ジャーナルの無料配付を4月から実施し、後者はすべての会員に正確で有用な情報が速やかに届くよう編集に努める。

2.5 日本油化学会年会

平成16年度第43回年会は、小松 満男実行委員長（大阪大学）のもと、大阪大学コンベンションセンターにおいて、11月1日（月）-3日（水）に開催する。受賞講演、一般発表（口頭およびポスター）、過去3回の年会で定着した専門部会主催のシンポジウム・ランチョンセミナーに加えて、昨年度から設けられたイングリッシュセッションなどを行う。なお、若手研究者の発表を活性化する目的で、本年会においてもヤングフェロー賞の応募を積極的に呼び掛ける。

2.6 JOCS-AOCS ジョイントシンポジウム JS2004 (Joint symposium on Biosciences)

JOCS-AOCS ジョイントシンポジウム JS2004 は、和田 俊実行委員長のもとに準備が進められ、オハイオ州シンシナティ市で、2004年5月10日（AOCS 年会）に開催される。シンポジウムは、年会プログラムの初日にセットされ、9つのセッションにおいて、口頭発表、ポスター発表を行う。また、国際交流をはかるため、日本油化学会主催のパーティー「Japan Night」を講演終了後に開催する。

2.7 JOCS-MPOB ジョイントシンポジウム (JOCS-MPOB JS)

JOCS-MPOB ジョイントシンポジウムは、二木 鋭雄実行委員長（産業技術総合研究所）のもとに準備が進められ、2004年度日本油化学会年会の初日、11月1日（月）に開催される。“New Aspect of Future Sustainable Resources-Palm Oil and Other Natural Fats & Oils”のテーマで、招待講演4件、一般講演6~7件（JOCS, MPOB 同数）を予定している。招待講演について MPOB 所長 Datuk Dr. Yusof Basiron 氏、京都府立医大 西野輔翼氏を予定している。

